

セーブ・ザ・チルドレンのポスト 2015 に向けたビジョン「未来への枠組み」

—2030 年までに、私たちが目指す世界—

ゴール 1	ターゲット
極度の所得の貧困がなくなり、経済成長の恩恵がすべての人々に共有される	1.1 極度の所得の貧困を根絶する 1.2 相対的貧困と所得の不平等を削減し、すべての人に機会を提供する 1.3 経済の生産性、包摂性、持続可能性を向上する 1.4 すべての人に働きがいのある人間らしい仕事を提供し、危険な仕事に従事する子どもをなくす 1.5 普遍的な社会保護システムを導入する
ゴール 2	ターゲット
誰一人として飢餓に苦しむことなく、すべての人が食料、栄養、安全な水を得られる	2.1 飢餓を根絶し、栄養を改善し、発育阻害を半減する 2.2 食料システムが安定し、持続可能で、すべての人に行き渡る栄養価の高い食料が生産される 2.3 すべての人が適量で、購入可能で、栄養価の高い食料にアクセスし消費できる 2.4 すべての人が安全な水と衛生にアクセスできる
ゴール 3	ターゲット
予防可能な妊産婦、新生児、乳幼児の死亡をなくし、すべての人が資金的困難に陥ることなく質の高い保健医療サービスを受けることができる	3.1 予防可能な妊産婦、新生児、乳幼児の死亡を根絶する 3.2 基礎的な保健医療のユニバーサル・ヘルス・カバレッジを達成する 3.3 すべての人を資金的リスクから守る普遍的な保護を達成する 3.4 マルチステークホルダーの協調行動により、保健の社会的決定要因に取り組む
ゴール 4	ターゲット
すべての子どもと若い人が質の高い教育を衡平に受けることができ、優れた学習成果を得られる	4.1 すべての子どもが、初等教育修了までに適切で計測可能な学習成果を得て、優位なグループの子どもと不利なグループの子どもの学習格差が大幅に削減される 4.2 すべての子どもが、学習準備ができた状態で初等教育をスタートし、優位なグループの子どもと不利なグループの子どもの発達における格差が大幅に削減される 4.3 すべての若い人が働きがいのある人間らしい仕事を心得て活発な市民となれるよう、実用的な識字と計算、技術およびライフスキルを習得する 4.4 すべての子どもが、緊急時も含み、質の高い、安全でインクルーシブな教育を受けることができる
ゴール 5	ターゲット

すべての子どもが暴力のない生活をおくり、紛争と災害下では保護され、安全で家庭的な環境で成長する	5.1 すべての子どもに対する性的な暴力および有害な行為を防止し、廃絶する 5.2 子どもに対する体罰をなくす 5.3 子どもを不必要に親から離さず、子どもの最善の利益に反して施設に収容される子どもをなくす 5.4 緊急時も含み、すべての子どもにリーチできる効果的な子どもの保護メカニズムを設置する
ゴール6	ターゲット
女性と女兒がエンパワーされ、男性や男児と平等の権利を持つ	6.1 女性および女兒に対するあらゆる暴力を予防し、廃絶する 6.2 女性が収入を得て、財産を所有・相続する平等の権利を確立し、女性と女兒の無償労働の負担を減らす 6.3 女性と女兒の性と生殖に関する健康と権利を確立する 6.4 女性と女兒の私的、公的および政治的な生活における参加と影響力の平等性を確立する
ゴール7	ターゲット
すべての人が資源効率が高く低炭素のエネルギーにアクセスできる	7.1 電力および調理・暖房用のクリーン燃料への普遍的アクセスを実現する 7.2 調理用コンロ、たき火および大気汚染による死亡をなくし健康被害を削減する 7.3 世界的なエネルギー構成における再生可能エネルギーの割合を増加させる 7.4 世界的なエネルギー効率の改善率を増加させる 7.5 エネルギー・セクターの炭素と水への集約度を削減する
ゴール8	ターゲット
すべての社会が災害に対して強靱である	8.1 災害による死亡を半減する 8.2 災害による経済損失を半減する 8.3 国家計画および貧困削減プログラムにおいて災害リスク管理を主流化する 8.4 災害 災害リスクにさらされる可能性と脆弱性を半減する
ゴール9	ターゲット
すべての人が持続可能で、健全かつ強靱な環境を享受できる	9.1 エコシステムの劣化および生物多様性の損失を削減する 9.2 人間の基本的ニーズにとって必要な自然資源をその限界を超えずに管理する 9.3 持続可能な消費と生産を国家の政策および実行計画に組み込む
ゴール10	ターゲット
世界が危険な気候変動を回避する方向に向かい、気候変動の影響に対する脆弱性が削減される	10.1 温室効果ガス排出が世界的にピークアウトを迎え、国連気候変動枠組条約の目標と整合する速度で削減される 10.2 気候変動のインパクトに対する国や世帯の脆弱性を削減する 10.3 気候変動の緩和と適応のための気候変動対策資金を動員する
ゴール11	ターゲット

あらゆるレベルで透明で、包括的で、説明責任を果たすガバナンスが実現する	11.1 予算公開、情報へのアクセス、企業による統合報告書など透明なガバナンスが確保される 11.2 市民のおよび政治的自由、市民社会の活発な活動など参加型のガバナンスが確保される 11.3 法の支配の確立、効果的な機関、腐敗の削減など説明責任を果たすガバナンスが確保される 11.4 機関が効果的で不正資金流入の対策が取られるなど、透明で説明責任を果たすグローバル・ガバナンスが確保される
ゴール 1 2	ターゲット
強固なグローバル・パートナーシップにより持続可能な人間開発が前進する	12.1 援助の量と質に関するコミットメントが果たされる 12.2 持続可能な開発のための新しい資金源を動員し、責任ある貸借を確保する 12.3 国際貿易と経済取引が持続可能な開発を前進させる 12.4 すべてのビジネスが人権の実現を尊重・支持し、持続可能な開発を前進させる 12.5 国境を超えた犯罪に対処し、武器や紛争資源の不正流入を止める

人々に感動を与え、力強く、明確なビジョンを示す：新しい枠組みの序文

2015年に世界の指導者は国連総会に集い、国際開発の方向性を大きく転換させる可能性を持つ新しい枠組みに合意します。この枠組みは、私たちの世代で極度の貧困に終止符を打つ可能性を持っています。こうした枠組みには、世界中の政府のコミットメントを引きつけ、持続可能な人間開発に向けた取り組みを加速させる、感動的で力強く、明確なビジョンを示す序文が必要です。

以下で提案するのは、世界の指導者が未来に向けたビジョンと、その達成への道筋を示す目標枠組みのための序文案です。

未来に向けた枠組みの序文案

世界はこの25年間で、貧困削減でかつてない成果を遂げました。予防可能な病気で亡くなる5歳未満児の年間数は1990年以来半減しました。安全な水へのアクセスがある人は20億以上増加し、約5,000万人の子どもが初等教育を受けられるようになりました。世界で絶対的貧困の中に暮らす人々の数も半減しました。

リオ宣言、ミレニアム宣言およびミレニアム開発目標のコミットメントに後押しされたこれら成果は、人類の歴史上の転換点をもたらしました。私たちの世代であらゆる形式の極

度の貧困を終わらせることが可能です。このビジョンを実現するためにすべての努力を集結しなければなりません。

私たちは、すべての子どもが等しく生き、成長する機会を与えられ、尊厳を持って生活し、人権を享受し、可能性を開花し、夢と希望が持てる世界をつくらなければなりません。

これは、誰一人として取り残されない世界を意味します。最も貧しく、最も周縁化された子どものニーズが最初に満たされ、持てる者と持たざる者の極端な格差がなくなった世界です。

私たちの子どもたちが自由で満たされた生活をおくり、さらにその子どもや孫も同じような生活を送れることに確信が持てる世界です。私たちが依存する自然資源が未来の世代のニーズを満たせるよう保護され、気候変動がこれまでの人間開発の成果を逆戻りさせない世界です。

これが、私たちが求める世界です。そのために、国際社会が 2030 年までに実行すべき 12 の国際開発目標を提示します。これらの目標は野心的で、達成には多くの資源、リーダーシップ、協力を必要とします。これまでのやり方を続けていては成功できませんが、野心レベルを下げるリスクも取ることはできません。極度の苦しみを根絶するための、このまたとない機会を逃すわけにはいきません。そして、気候変動を含む緊急の持続可能な開発課題への取り組みに失敗し、何百万人もの人々が再び貧困に陥る状況を傍観してはならないのです。

枠組みの中心となるのは、貧困の重大な側面を取り除くためのいくつかの普遍的な「ゼロ目標」です。これらが目指すのは、予防可能な病気で亡くなったり、飢餓に苦しんだり、暴力を受けたり、あるいは質の高い教育、水・衛生、エネルギーへのアクセスを奪われた子どもをなくすことです。2030 年までに、すべての人々が健康で満たされた生活をおくるために必要な基礎的なサービスにアクセスでき、すべての子どもが基本的な人権が尊重され、守られ、実現された社会で成長できるようにしなければなりません。

こうした野心を、地球環境の制約の範囲を超えずに達成することは可能ですが、開発の経済的、社会的、環境的側面の連関や相乗作用に配慮しなければなりません。例えば、子ど

もの健康は強固な保健システムのみによって達成されるのではなく、住居の内外の空気汚染や、気候変動によって誘発される極端な気象現象を含む災害への脆弱性を削減していくことも必要です。そのため、新しい枠組みには、エネルギー効率の改善、環境保護、気候変動の抑制、災害に対する脆弱性の削減などの目標が、保健や教育、その他人間開発の成果目標と共に加えられる必要があります。

世界を欠乏から解放する私たちのミッションにおいて、誰一人取り残してはなりません。この野心を達成するために、新しい枠組みの実施に向けた3つの横断的コミットメントが求められます。第一に、より優位な立場にいるグループと不利な立場に置かれたグループの機会や福利における格差が是正されなければなりません。このため、中間ターゲットとしての「踏み台ターゲット」を導入し、世界の富裕層と貧困層、持てる者と持たざる者の格差縮小を目指します。第二に、社会的ステータスや経済的状况にかかわらず、すべての層の人々にとって目標・ターゲットが達成できていなければ、その目標・ターゲットは達成と見なされるべきではありません。第三に、不平等の状況をモニタリングするために、細分化されたデータの集約と利用性を改善しなければなりません。

ここに提示する持続可能な開発目標は、国連子どもの権利条約を含む国際人権規約を支持し、前進させるように構成されています。さらにこれらの目標は、国連総会決議 66/288 の「私たちが望む未来」を貫き、ミレニアム宣言の土台でもある国際的価値観を具現化するものです。

この国際的価値観とは：

自由：女性、男性、子どもはすべて尊厳を持ち、飢餓、抑圧、暴力、不公正に苦しむことなく生きる権利を持ちます。このため、枠組みにはあらゆる形式の極度の貧困をなくす目標を入れました。極度の所得の貧困と飢餓に終止符を打ち、予防可能な病気で亡くなる子どもと母親や、暴力と虐待に苦しむ子どもがいなくなり、すべての人々が質の高い教育と働きがいのある人間らしい仕事を得られるようにしなければなりません。さらに、すべての人々のニーズに応える、透明で、包摂的で、説明責任を果たすガバナンスの目標も加えました。ガバナンスは持続可能な開発のための基礎であり、この目標がなくてはすべての人々の尊厳を確保することはできません。

不平等：子どもが健全に成長するために得られる機会は、ジェンダー、性的指向、民族、

地域、社会経済的な背景、障害の有無などによって、生まれながらにして左右されるべきではありません。この枠組みでは、最も優位な立場にいるグループと最も不利な立場に置かれたグループ間の格差を縮小する中間ターゲットとしての「踏み台ターゲット」を設け、不公平な不平等をなくすための措置を導入しました。また、ユニバーサル・ヘルス・カバレッジ、質の高い教育へのアクセス、社会保護、累進課税など平等を促進させる政策へのコミットメントも含めました。さらに、すべての社会層・所得層においてターゲットが達成されなければ、そのターゲットは達成とは見なされないという原則も入れ込みました。より質の高い、細分化されたデータにより、戦略が立てられ、成果がモニタリングされる必要があります。

連帯：ミレニアム宣言が述べているように、地球規模的な課題は、衡平性と社会正義の基本原則のもと、コストと負担を公平に分配する方法で対応されなければなりません。そのため、単独のガバナンス目標の中に、公平でルールに基づく代表制の国際的なガバナンス・システムを支える多国間機関の強化を提示しています。また、持続可能な開発への民間セクターの力の活用、資金的資源の最大限の活用、後発開発途上国向けの開発協力の強化をグローバル・パートナーシップ目標に入れ込みました。極度の貧困の根絶が最も困難な、紛争の影響を受けた脆弱国が、より多くの支援を受けなければなりません。

許容：この枠組みは、市民と国家間の尊重、平和、対話を促進し、かつ多様な信条、文化、言語を重視するものです。目指すのは、紛争や暴力がなく、すべての子どもと大人の人権が尊重され、実現されている世界をつくることです。紛争を誘発する課題に取り組み、国内に平和と互いの尊重の礎を構築するために、教育を促進し、すべての若い人々が働きがいのある人間らしい仕事を得られ、参加型で透明で説明責任を果たすガバナンスが確保されるようなターゲットを入れました。国境を越えた犯罪や、資金、武器、紛争資源の不正流出入を防ぐための措置も加えました。さらに、世界で紛争や災害に対して最も脆弱な立場に置かれた人々の強靱性と回復力を高めるためのターゲットも含めました。

自然の尊重：経済的、社会的、環境的なシステムは互いに連動し、相互依存しています。ポスト 2015 年開発目標にとって経済成長と変革は重要ですが、私たちには未来の世代のために貴重な環境資源を保護する道義的な義務があります。人々が生存し、健康に生きるために必要な資源を提供する自然体系を破壊し続ければ、世界から貧困をなくすことは永遠に不可能です。そのため、自然資源利用と環境インパクトから経済成長を切り離し、気候

変動を抑制し、災害への強靱性を高め、現在・未来ともに人々が健康的で持続可能な環境を享受できるようにするための目標とターゲットを加えました。

共通の責任：国際社会のすべてのメンバーは、自国および地域、国際レベルにおいて開発課題の根本に横たわる構造、社会規範、行動に立ち向かい、揺るぎない変革を押し進める共通の責任を負っています。枠組みには、共通の目標達成に向けて国際的努力を結集し、パートナーシップを促進する一連の普遍的なターゲットを設定しました。加えて、各国の持続可能な人間開発のプロセスは、国レベルのオーナーシップと取り組みが不可欠であるという認識から、個々の国特有の状況やニーズに沿って、政府および市民の協働のもと設定されるべきターゲットもいくつか設けています。

ここに提示する持続可能な開発枠組みは、ミレニアム開発目標が遂げた成果を土台に、未だ残された課題に取り組み、私たちが求める未来への道標となるものです。前途は容易ではありませんが、後戻りはできません。貧困の根絶および地球環境の制約内の繁栄の共有と促進という共通の目標に向かって、エネルギー、知恵、そして思いを注がなければなりません。高い野心と献身および協力があれば、2030年までに目標を達成することは可能です。私たちは、極度の貧困に永遠に終止符を打ち、すべての子どもが公平な人生のスタートを切れる世界をつくる世代となれるのです。